

第3回中間報告

(報告期間: 2022/4/19 – 2022/6/21)

国際ロータリー第 2710 地区

2021-22 年度地区補助金奨学生

ジェイムズ常マシユー

報告書提出日: 2022/6/21

派遣ロータリークラブ: 広島中央ロータリークラブ

カウンセラー: 西川済様

留学機関: University of York

専攻: MA English Literary Studies

1. 現在の学習状況

4/19 に春学期受講科目のレポート提出締め切りを迎えた後、すぐさま修士論文作成に取り掛かり始めました。

修士論文の題名は“I was not a hero”: Martial Masculinity and Trauma in the works of Fountain, Powers and Walker”（「俺はヒーローなんかじゃない」：ファウンテン、パワーズ、ウォーカーの作品群における兵士の「男性性」とトラウマについて）としています。この修士論文では、イラク戦争を扱う現代アメリカ文学 3 作品、『イエロー・バード』（*The Yellow Birds*, Kevin Powers, 2012）、『ビリー・リンの永遠の一日』（*Billy Lynn's Long Halftime Walk*, Ben Fountain, 2012）、『チェリー』（*Cherry*, Nico Walker, 2019）に関して、戦争や兵士を「男らしさを身体や命を賭してまで発揮する場所」、「男らしく家族を守るアメリカン・ヒーロー」として定義する時、兵士の「男らしさ」と、帰還後の PTSD やフラッシュバックなどといった「トラウマ」がどういう関わりにあるのかということについて個々の作品ごとに論じます。そして、論の深化の上で、イラク戦争と「ヒーロー」としての兵士のステレオタイプに関する様々なカルチャー・スタディーズや批評理論(トラウマ (カールスやフロイト)、イラク戦争におけるアメリカ政治 / 社会 / 文化論、「男らしさ」(レイウイン・コネル)、「ホモソーシャルティ」(イヴ・セジュウィック)、アメリカ軍隊における同性愛嫌悪や身体論など)を交え、イラク戦争と「男らしさ」に関する枠組みを作りながら論じる予定です。

指導教官となってくださった Dr Bryan Radley (ブライアン・ラドリー博士)は、現代英語圏文学(イギリス、アイルランド、アメリカ)に関して、ベトナム戦争文学や Ottessa Moshfegh(オテッサ・モシュフェグ)などといった現代アメリカ作家、ジョン・バンヴィルやアンナ・バーンズなどといった現代アイルランド作家、現代イギリス作家であるアンジェラ・カーターやカズオ・イシグロなど(『日の名残り』『わたしを離さないで』など)、非常に幅広く研究されています。7 月末まで約 3 週間ごとに指導があり、僕の原稿をもとに、論の展開や方向性、フロイトやラカンによる哲学や精神分析学などの批評理論やカルチャー・スタディーズの使用などといった分析方法、論の構造の深化など様々な角度から指導やアドバイスを受けつつ、修士論文作成に勤しんでいます。また、「学術英語で高度な学術論文」を書くということにあたって(どの言語でも洗練された語彙で学術論文を書くのは非常に難しい

ですが...)、学術作法やライティングに関しても、ラドリー博士や、春学期受講した“Black Is / Black Ain't” 担当講師で僕の在籍する修士課程のコース主任でもいらっしゃる Dr Janine Bradbury (ジャーニン・ブラッドブリー博士)、学内のライティング・センターのアドバイザーの方などに何度もアドバイスを受けて、自分が納得できるものを完成できるように取り組んでいます。



(画像は、修士論文で扱う作品です。左より、*The Yellow Birds* – Kevin Powers, 2012 *Billy Lynn's Long Halftime Walk* – Ben Fountain, 2012 *Cherry* – Nico Walker, 2019)

2. 現地ロータリークラブとのかかわりについて



(画像はチャリティバザーの様子です)

4/27 に、York Rotary のチャリティバザーの運営に参加させて頂きました。市の中心で午前 10 時から午後 3 時半まで開かれ、£384 の収益を挙げる事ができました。フリーマーケットやお菓子販売、バザーを中心に行い、現地住民や観光客の方など、多くの方に来場して頂くことができました。収益は市の慈善団体、並びにウクライナへの募金に活用されることになりました。7/10 開催予定の York Rotary のイベントにもご厚意で参加させて頂くことになりましたので、引き続きコミュニティ活動に関わり、ロータリー奨学生として成果を残せるよう、York Rotary の皆様と協力をしながら努めていきたいと思ひます。

3. これからの予定

夏学期も終わりに近づき、指導教官との面談を間に挟みつつ、ひたすら修士論文を書く日々が続いていきます。孤独な作業でもあるので、精神衛生と体調に気をつけつつ、自身の将来の糧になるような、納得できるものを完成できるよう 1 歩 1 歩進んでいきたいと思ひます。

今後ともよろしくお願ひ致します。